

IBM TRIRIGA Building Insights

本「サービス記述書」は「クラウド・サービス」について規定するものです。該当する注文関連文書には、お客様の発注に関する価格の詳細情報および追加の詳細情報が記載されています。

1. クラウド・サービス

IBM TRIRIGA Building Insights は、プレゼンス・データや占有データをサード・パーティーのセンシング・テクノロジーから取り込み、分析を行い、オフィスやビジネスをサポートする空間タイプに該当する施設の管理およびスペース管理について、より適切な意思決定を下す「クラウド・サービス」です。SaaS オファリング (IBM Facilities and Real Estate Management on Cloud – TRIRIGA) またはオンプレミスの SW オファリング (IBM TRIRIGA Facility Manager) を実装済みであることが、このサービスの前提条件になります。

本「クラウド・サービス」は、SaaS オファリング (IBM Facilities and Real Estate Management on Cloud – TRIRIGA) またはオンプレミスの SW オファリング (IBM TRIRIGA Facility Manager) で管理される、使用許諾が付与された場所に関する占有データを収集して集約するための、サード・パーティーのプレゼンス・センシング・テクノロジーと統合する必要があります。サード・パーティーのプレゼンス・センシング・テクノロジーのデータ転送、データ保管、およびデータ処理のキャパシティーは、IBM Watson IoT Platform が実行します。キャパシティーはプレゼンス・センシング・テクノロジー全体で集約されるため、「キャパシティー」は「クラウド・サービス」のオファリングごとに定義されます。

1.1 オファリング

お客様は、利用可能な以下のオファリングから選択することができます。

1.1.1 IBM TRIRIGA Building Insights Production Environment with IoT Platform

本「クラウド・サービス」により、お客様は、「アイテム」の使用許諾ごとに最大 25,000 「平方フィート」(以下「SQFT」といいます。) または 2,350 「平方メートル」(以下「SQM」といいます。) を対象とする、占有データに接続して収集することができます。延べ床面積が 1 つの「アイテム」を超える場合、2 つ目の「アイテム」を購入する必要があります。

さらに、各「アイテム」では、25,000 SQFT または 2,350 SQM ごとに最大 125 個のプレゼンス・センシング・デバイスについてオプションの構成および接続が可能です。ただし、プレゼンス・センサー 1 台ごとの最大キャパシティーは 1 日あたり 1,440 件の送信メッセージ(メッセージあたりのサイズは 0.8KB) となります。これは、お客様がセンサー・デバイスを設定したワークスペースの占有センシングをカバーするように決定されます。使用許諾において、フロアは、管理対象またはモニター対象の物理的スペースについてお客様が提供する記録で定義されるとおり、「延べ平方フィート」または「延べ平方メートル」で測定されますが、細分化することはできません。

1.1.2 IBM TRIRIGA Building Insights Non-Production Environment with IoT Platform

お客様は、たとえばプレゼンス・センシング・テクノロジーの接続を確認することを目的とした社内テストおよび社内評価のために、「クラウド・サービス」の非実稼働環境「インスタンス」を取得できます。非実稼働の各「インスタンス」では、最大 10,000 SQFT または 950 SQM をカバーする、最大 25 個のプレゼンス・センシング・デバイスについて構成および接続が可能です。ただし、プレゼンス・センサー 1 台ごとの最大キャパシティーは 1 日あたり 1,440 件の送信メッセージ(メッセージあたりのサイズは 0.8KB) となります。これは、お客様がセンサー・デバイスを設定したワークスペースの占有センシングをカバーするように決定されます。使用許諾において、フロアは、管理対象またはモニター対象の物理的スペースについてお客様が提供する記録で定義されるとおり、「延べ平方フィート」または「延べ平方メートル」で測定されます。お客様が記載以上のキャパシティーを必要とする場合、お客様は実稼働のオファリングを取得しなければなりません。

1.2 オプション・サービス

1.2.1 IBM TRIRIGA Building Insights Pay Per Use

お客様がその使用許諾の範囲を超えて IBM TRIRIGA Building Insights with IoT Platform を使用すると、超過キャパシティをカバーするのに必要な追加「アイテム」の料金がお客様に毎月請求されます。

2. データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート

IBM のデータ処理補足契約書 (<http://ibm.com/dpa> に公開。「DPA」) のほか、以下のリンクの「データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート」(データ・シートまたは「DPA 別表」) にも、「クラウド・サービス」およびそのオプション(処理対象の「コンテンツ」の種類、対象となる処理活動、データ保護機能、および「コンテンツ」の保存および返却についての仕様に関連)に関する追加的なデータ保護情報が記載されています。DPA は、i) EU 一般データ保護規則 (EU/2016/679) (GDPR)、または ii) <http://www.ibm.com/dpa/dpl> に記載されているその他のデータ保護法が適用される場合に、その適用範囲に限り、「コンテンツ」に含まれる個人データに適用されます。

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=3547276046E911E8ADCBA344DE8FB657>

3. サービス・レベルおよびテクニカル・サポート

3.1 サービス・レベル・アグリーメント

IBM は、以下の可用性のサービス・レベル・アグリーメント(以下「SLA」といいます。)をお客様に提供します。IBM は、下表のとおり、「クラウド・サービス」の累積的な可用性に基づき、適用しうる最大の補償を適用します。「可用性」は、契約月における分単位の総時間数から、契約月における「サービス・ダウン」の分単位の総時間数を差し引き、それを契約月における分単位の総時間数で除することにより算出され、結果はパーセントで表します。「サービス・ダウン」の定義、請求のプロセス、サービスの可用性の問題に関して IBM に連絡する方法については、IBM の「クラウド・サービス」のサポート・ハンドブック (https://www.ibm.com/software/support/saas_support_overview.html) に掲載されています。

可用性	クレジット (月額サブスクリプション料金のパーセント*)
99.9% 未満	2%
99.0% 未満	5%
95.0% 未満	10%

*サブスクリプション料金は、請求対象月に関して約定した料金です。

3.2 テクニカル・サポート

「クラウド・サービス」のテクニカル・サポート(サポート窓口の連絡先情報、重大度レベル、サポート利用可能時間、応答時間、その他のサポート情報およびサポート・プロセスなど)を参照するには、IBM サポート・ガイド (<https://www.ibm.com/support/home/pages/support-guide/>) の「クラウド・サービス」を選択します。

4. 料金

4.1 課金単位

「クラウド・サービス」の課金単位は、「個別契約書」に記載されます。

以下の課金単位が本「クラウド・サービス」に適用されます。

- 「アイテム」とは、「クラウド・サービス」の利用により管理、処理される、または「クラウド・サービス」の利用に関連する特定のアイテムが1回発生することをいいます。本「クラウド・サービス」において、「アイテム」は、25,000 平方フィートまたは 2,350 平方メートルの延べ床面積になります。
- 「インスタンス」は、「クラウド・サービス」の特定の構成への各アクセスを意味します。

5. 追加条件

2019年1月1日より前に締結されるクラウド・サービス契約書(または同等のクラウド基本契約)については、<https://www.ibm.com/acs>に掲載されている条件を適用します。

5.1 拡張機能

IBM TRIRIGA Building Insights に構築された拡張機能は、当該拡張機能を提供したサービス・プロバイダーがホスト、管理、維持しなければなりません。これには、IBM TRIRIGA Building Insights に対する最新更新で確実に機能するための、拡張機能の定期的なテストが含まれます。

5.2 第三者のセンシング・テクノロジー

IBM は「クラウド・サービス」について、特定のサード・パーティーのセンシング・テクノロジーとの統合を手配することができます。かかる統合により、お客様は、サービス・プロバイダーまたはデバイス・ベンダーなどのサード・パーティーのプレゼンス・センシング・テクノロジーから、特定のデータを「クラウド・サービス」に転送できます。お客様は、かかるサード・パーティーとの書面による契約を締結する全責任を負います。この契約は、かかるテクノロジーのお客様による使用、ならびに「クラウド・サービス」へのデータ転送に適用されるガバナンス・モデルに適用されます。IBM は、かかるテクノロジーに対して責任を負わず、また関連する「アプリケーション・プログラミング・インターフェース」や、かかるデータを「クラウド・サービス」に送信するためのその他のゲートウェイに対しても責任を負いません。